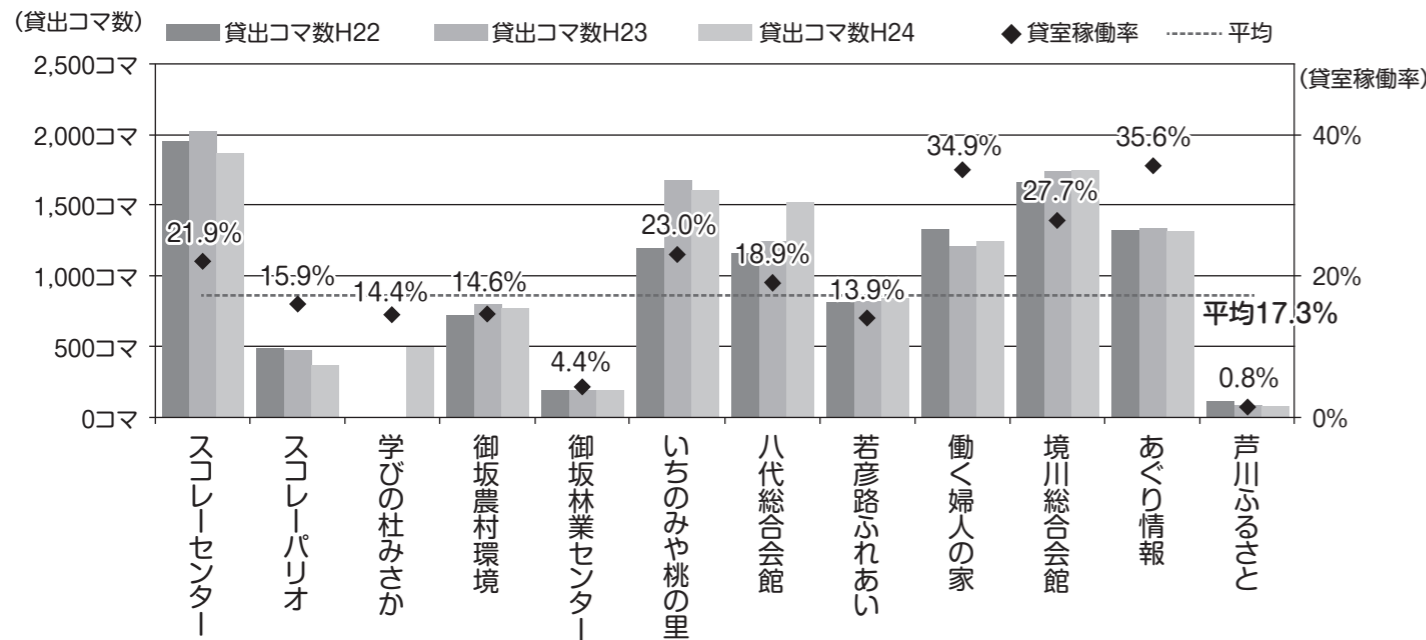


## 『用途別① 集会所施設』

市が保有する集会所は、スコレーセンターや学びの杜みさか、いちのみや桃の里ふれあい文化館など12施設14棟15,151.54㎡あり、芸術文化、福祉、コミュニケーションなどの振興を図る場とし、幅広く利用されています。

現状を公共施設白書で見ると、ストック情報である建物の築年別の傾向は、大規模改修が必要とされる目安の築30年を経過した建物の延床面積が6,065.17㎡（40.0%）となっています。また、築20年から30年以内の建物の延床面積が3,730.23㎡となっており、10年後には集会所の64.6%が築30年を経過することになります。施設利用の貸室稼働率は、平均17.3%となっており、最も稼働率の高い施設においても稼働率は30%台にとどまっています（グラフ1）。

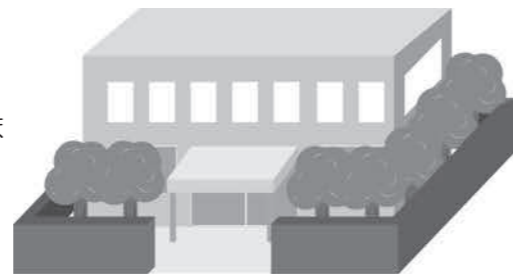
### グラフ1 集会所貸室の稼働率比較



コスト情報では、維持管理コスト153,053千円を利用件数（平均貸出数）で割ると、1件当たりのコストは12.9千円、面積当たりのコストは10.1千円となっており、最大と最小の差が10倍近くあります。また、施設の使用料や賃借料などの収入が8,432千円であることから、支出に対する収入の割合（受益者負担金）は5.5%になっています。

このことから、施設の更なる利活用が必要なのはもちろんですが、将来的に見込まれている大規模改修費などを確保するため、使用料の見直しに向けた検討が必要になります。また、集会所は地域のコミュニケーションの場や、各種行事を開催するために必要な施設ですが、一部に稼働率の低い施設が見受けられます。長期的には、利用実態に基づき、利用が少ない施設については施設の複合化や統廃合を視野に入れた検討が必要です。

※個々の施設の情報については、公共施設白書に掲載しています。公共施設白書は、市ホームページでご覧いただけます。



次回の広報ふえふき2月号では、引き続き、用途別に見た公共施設の現状と課題などについて掲載します

■問合せ先 経営企画課 経営政策担当 ☎055(262)4111

## 考えよう! 公共施設 ④

市民の皆さんとこれからの公共施設のあり方について考えるためのシリーズ第4回目です。前回までに、人口減少・少子高齢化が進み、財政事情が厳しい中、老朽化する公共施設の維持・更新にかかる費用負担が問題となってくる現状をお知らせしました。今回は、用途別にみた施設の現状と課題についてです。

### 『用途別実態把握』

#### ～コスト情報とストック情報の的確な把握～

施設サービスを持続可能なものとしていくには、効率的・効果的な施設の配置、スペースの有効利用、民間委託などによる維持管理の効率化、長寿命化の工夫などの取り組みが必要になります。

そのためには、各施設の現状を把握する必要があります。

公共施設の実態を把握するためには、老朽化や耐震化の状況だけでなく、利用状況や運営実態、さらには施設にかかる費用など複眼的な視点で分析することが重要です。具体的には、コスト情報として、建物全体およびそこで行われている行政サービスの人件費も含め、全体でいくらかかっているか、また、ストック情報として、土地・建物の老朽化状況などの物理的な状況に加え、利用状況、運営状況を整理する必要があります。

公共施設白書では、数多くある公共施設を用途別に17に分類して、用途ごとにコスト情報とストック情報を整理し、この2つの情報から見てきた公共施設の実態を総合的に把握することで、今後、公共施設に何を求め、何をすべきかなど、改善に向けた検討の方向性を明らかにしました。

### 公共施設を現状把握する際のイメージ

